

農林水産大臣賞

にしきまち

にしきまち

錦町農産物等直売所出荷協議会(熊本県 錦町)

農産物等の出荷組織を核に、地域住民一体となった広範で多様な取組による地域づくり

1. 地区の概要

錦町は、県南部の球磨地域のほぼ中央に位置し、中央部の低地一帯では水稻や葉たばこ、野菜の栽培や畜産等が盛んである。一方、丘陵地のうち北部は茶、南部は果樹の栽培が盛んで、特に梨や桃は県内有数の産地であり、「フルーツの里」とも呼ばれている。

2. 団体の概要

町内で生産される農産物の殆どがJA等を通じて地域外へ出荷され、地域内の流通経路がなかったため、「町の多様な地域資源の域内流通の確立」「農業の担い手確保と雇用創出」を目的とし、平成14年4月に町内の専業農家や惣菜加工業などの兼業農家などにより当協議会を発足。「道の駅 錦」に直売所を開設し、活動を開始。現在は農業者を中心に商・工事業者など117戸が会員となり、幅広い住民と連携した地域づくり活動に取り組んでいる。

3. 団体の取組み

製造過程で廃棄されていた球磨焼酎の酒粕を原料に培養された、光合成細菌含有の土壌改良剤活用による実証を重ね、農産物の品質向上、収量増加に係る講習会を開催し、直売所農産物のブランド化、地場農産物を原料とする加工品開発・販売による農家所得の向上と地産地消の推進に貢献。

「梨まつり」など季節ごとのフェアのほか、「くらんどつながる市」をはじめとしたイベントを非農家や農業に関わりのない団体も巻き込んで主催するとともに、ホームページやSNSを開設し、それらを活用した情報発信により、直売所をフックとした交流人口の増大による活性化に寄与。

こうした取組みにより、協議会の売上は年々増加し、併せて構成員農家の所得向上にも繋がり、若手のUターン就農の受け皿や、協議会従業員の増員によって地域の雇用創出にも貢献。



講習会の様子



傷桃を使った加工品



「くらんどつながる市」